



「平内町」

清水川漁港で働く人と 夜越山パークゴルフ場でプレーする人

基幹産業は、水稲を中心とした農業と養殖ホタテの漁業で、「ホタテの町」として生産量は日本一。また、三味線界の第一人者「高橋竹山師」が生まれ育った町としても知られています。浅虫夏泊県立自然公園や夜越山森林公園を抱え、特に夏泊半島には特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地」で知られる浅所海岸や、「ツバキ自生北限地帯」として天然記念物の指定を受けた「椿山海岸」は日本の渚・百選に選ばれるなど風光明媚な町です。

撮影 保護司 樋口 修三 平成27年10月



発行：青森地区保護司会
青森市長島1丁目3-25
青森保護観察所内
TEL 017-776-6418

編集：広 報 部

第38回青森県更生保護大会に向けて



青森地区保護司会
会長
天内 修

本年度の青森県更生保護大会（以下、県大会といいますが）は、十一月十三日（金）、むつ市の下北文化会館を会場に第37回目となります。むつ下北地区保護司会、むつ、大間、東通の各更生保護女性会の皆様が、一年ほど前から準備に取り掛かっているとのこと、頭の下がる思いです。

県大会は、青森保護観察所と更生保護女性会、BBS会、更生保護協会、あすなろ、協力雇用主会、青森県就労支援事業者機構、保護司会の民間7団体が一堂に会し、更生保護制度の目的である、犯罪をした者や非行のある少年の改善更生と、犯罪や非行のない明るい地域社会づくりに、一層の努力と精進を重ねて、地域住民の理解と協力を得ながら明るく住みよい社会づくりに寄与することを、すべての更生保護関係者が再認識再確認するための機会でもあると思います。

近年の総事件数は漸減傾向にあります。万引きなど窃盗犯の低年齢化や社会の耳目を集める凶悪粗暴犯罪、また、出所後、退院後の住居

や就労先がなく、生活困窮により再犯にいたる者、障害や高齢により更生することが困難な者も増えているとのこと、立ち直りを支えるために仕事と居場所の確保がとても大事になってきました。再び罪を犯すことなく社会復帰できるよう、私たち保護司は国民の期待に応えるべく研鑽に励み努力と精進が必要と思います。

さて、表題について、4月の地区定時総会で話したように、昨年度の県保護司会連合会理事会で、平成28年度から県大会を毎年開催、平成28年度開催地区は青森地区、と決議されました。

現在、事務方にて、平成28年11月上旬を目途に会場と折衝しているところ。次年度定時総会後には、正副会長会、理事会等で県大会開催の詳細について協議し、保護司会（地区内全保護司）、更生保護女性会を中心に実行委員会を立上げ、具体的に活動していく予定であります。皆様のご意見や良いアイデアを参考にしたとと考えていますので、どしどし述べていただければと思います。県都青森市での開催です。成功に導くためにも、ぜひ皆様のお力添えをいただきますよう、お願いします。



オープニングで披露する選抜生徒による合唱

第65回 社会を
明るくする運動



新城中学 JUMP チーム活動と ボランティア活動の取り組み

講演 「それでも、罪を犯してしまった人
たちの更生について」 青森地区保護司 加川 史

『新城中学校にて開催』 『来年度 甲田中学校』

毎年7月は「社会を明るくする運動」の強調月間で青森地区では、毎年学校との連携事業として会場を管内中学校輪番により開催しています。

今年の第65回社明運動は犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラは、青森市新城中学校を会場に7月8日午後1時25分より、生徒数530名(欠席含)、保護者、地域関係者・保護司を含め約600名の参加者で開催されました。

オープニングでは、選抜生徒による合唱を披露、その後伊藤校長に青森保護観察所の辻所長が安倍内閣総理大臣メッセージを伝達しました。続いて第一部では、非行の未然防止のために学校が取り組んでいることの発表で、新城中学 JUMP チーム5年間の活動報告と、新城中



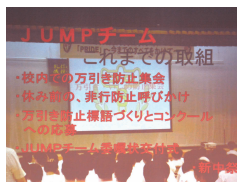
内閣総理大臣メッセージを受ける伊藤新城中学校長



講演する加川保護司



第一部で発表した JUMP チームとボランティア活動を発表した生徒たち



JUMP チームの発表



参加保護司の皆さん



来賓の皆さん

が進んでいるボランティア活動の取り組み状況の発表がありました。

第2部では、「それでも、罪を犯してしまった人たちの更生について」と題して、青森地区の加川史保護司(新城中卒業)が講演を行いました。閉会セレモニーでは、生徒によるお礼の言葉、全校合唱が行われ、最後に青森地区保護司会天内会長が閉会の挨拶を述べました。

「社会を明るくする運動」に参加して

新城中学校 生徒の感想文

生徒代表の感想文を掲載させて頂きました。

1年 阿部 千草

加川さんのお話を聞いて一番心に残ったのは、私たちや私たちよりも年下の頃から非行の道に入る人が出てくるといふことです。そして、小さなきつかけから重大なことにつながっていくことです。だから、興味本位で万引きをしないように、これからも生活していきたいです。

また、新城中のボランティア活動やリトルジャンプチームの活動により、この五年間で新城中がとてつもない方向に変わってきていることを知りました。万引きの件数が十件以上あったのに今では激減しているのがボランティアでつちかかってきた地域の人々とのつながりや、リトルジャンプチームのはたらきによるものが大きいのだと思います。

新城中は今、非行を少なくしていきたい、良く変わっている最中だと思えます。だから、自分達がその成長を壊さないように、そしてさらに良くしていくるように、一人一人気をつけて行動することが大切だと思いました。自分達のまわりにはいる人に迷惑をかけないように非行は絶対せず、仮に友達が非行にはしりそうになったときは止めてあげて、新城の地域から非行をなくしていきたいです。

2年 吉田 康平

今回、加川さんの講話を聞いて思ったことは、「小さな過ちが大きな過ちをするきっかけになる」ということです。

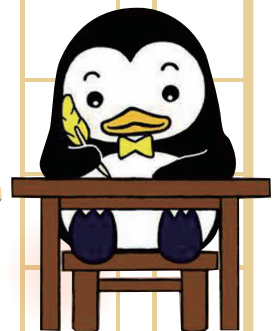
講話の中で、最初は一人でやってしまおうと多くの人で罪を犯してしまおうと話をされました。たしかに、中学生はわりと人との関係が広いので、悪いこともすぐ広がるかもしれません。だからこそ、ジャンプチームの活動は、地域の方々との交流を深め、地域全体に、非行には走らせないという雰囲気を作りだせて、とても良いと思います。また、加川さんは座右の銘を「話している人の話が聞ける自分」と話されました。犯罪にも何かしら理由があります。その人の話を聞き、相手の気持ちを理解して物事を考えることができる。これは日常生活において、相手に気遣いができる良いことです。私も、このように相手の意見を尊重しつつ、自分の意見をはっきり言える人になりたいと思いました。

今回「社会を明るくする運動」に参加して、自分自身が非行に走らないよう気をつけ、周りの人も進む道を間違えてしまわないように時には助言してあげたいと思いました。そうして地域全体が一つの輪となれるような「共生社会」が出来るようになる良いのではないのでしょうか。



3年 山田 有里子

「社会を明るくする運動」で私が学んだことは、犯罪や非行の防止はもちろんなこと、過ちを犯してしまつた人の立ち直りを受け入れるということです。犯罪や非行は、誰もがもっているほんの少しの心の闇から始まるのではないかと私は思います。ひやかashi、からかいといった相手の気持ちを考えられない行動から発展していくのです。それをなくすためには、加川さんがおっしゃっていた「他人の話を聞けるような自分」になることが大切だと思います。そうすることで犯罪や非行にはしつてしまふ人を生み出さない家庭や地域を築き上げていけると思っています。そして、過ちを犯してしまった人は、また一から社会に復帰できるように私たちが受け入れてあげることが大切です。また、再犯の確率が50%だと聞き、とても驚きました。私の中学校の校訓は「恕(思いやり)です。この「恕」の心を大切にし、私も地域の一員として、身近な学校生活から自分の行動を見直してみようと思いました。「他人の話を聞けるような自分」「恕」の心を意識することで、人と人との繋がりがさらに深くなつていくと思えます。それが、私たちにできる「社会を明るくする運動」の第一歩になると思っています。



工夫いっぱい 分会だより

第 1 分会

大和山見学と自主研修

第 1 分会では、自主研修の一環として 8 月 21 日、平内町にあります「松緑神道大和山」略称「大和山本部」を見学して参りましたので、その状況をご紹介します。

大和山本部は、青い森鉄道小湊駅から南方 13 キロの山奥にあります。大和山本部から望みできる東西南北の緑濃い山々はすべて大和山の所有であり、澄んだ空気、清らかな水の流れ、緑輝



大和山ホームページより

く広大な山林に囲まれており、世俗を忘れさせる、まさに別天地の感があります。大和山は、前の山林所有者の乱伐によって禿げ山状態になっていたのを、多くの時間と資金と労働力を投じて植林活動を行うことにより、緑豊かな山林に生まれ変わったのです。このことから平成 7 年大和山の山林は、林野庁

「水源の森百選」に認定されました。又、「こんな山奥にこんな建物かと思わせるような、延べ床面積 1 万 2 千平方メートル、最大高さ 43 メートルの「神集閣」(平成 6 年建立)をはじめとして、「天峰閣」「光霊殿」等が建立されており、そのほか荘厳な趣を漂わせている「教祖天小屋」「教祖記念館」「ご神木」「神城」「奥宮」「不動滝」等を見学、終始厳かな雰囲気の間、またたく間に約 2 時間の見学を終りました。分かりやすいガイドさんの説明により、大和山の教えは要約しますと「思いやりの心を持つて一生懸命生きる人、則ち真心を尽くす人の背後にはいつも神様がお守りしている」ということだそうです。何か保護司の信条にも通じるものがあるように感じました。他の分会の方たちにも是非見学して頂きたいと思

い紹介いたしました。【山形 民雄】

第 2 分会

横内中学校、交番、地区保護司会の協力で開催

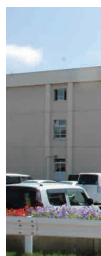
今年度 2 分会のミニ集会是横内中学校様の御協力を得、7 月 29 日午前 11 時からジャンプチーム生徒、校長先生、先生方、八甲田交番巡査、地区保護司会 会天内会長の参加を頂き開催しました。まず、全員による自己紹介後に遠岡保護司さんの友人で「研修 T A K」代表の齋藤雄一氏が「人生前向き、” 明元素 ” の演題で講話を拝聴致しました。松下幸之助氏(現 パナソニック創設者)の成功を裏付ける数々の語話を大きく 6 つに分けてお話下さいました。

① 奇跡が生み出した産物、それが自分



身体も弱く恵まれない環境だったが弱くゆえに他人に助けってもらいツキまかった結果の自分。

② プラス思考に徹する。マイナス思考からは何も生まれません。③ 「有り難う」の言葉の意味は災難、困難を私



が人間として成長する機会を与えて下さり有り難う。

④ 人生はバイオリズム。「前向き思考」は先祖の良い面を受

ける。⑤ 目標達成をイメージして感謝する。⑥ 魔法の言葉 ↓ ツイてる。有り難うございます。感謝いたします。を大切に結びました。

第 3 分会

少し明るいお話

今年の 8 月に大阪で中学 1 年生男女 2 人が原因不明で殺された。9 月に入山梨県で 18 歳の孫が祖父母を刺殺した。さらに三重県では高校 3 年生男子が同じ高校の 3 年生女子を頼まれたと称して殺している。何ともやり切れない事件である。それぞれに原因はあるだろうが決してあつてはならない行為である。事件後の対策は当然であるが事前の予防活動は更に大切である。



今回は地域で行っている子ども会のある活動について紹介したい南金沢町会では夏休み期間中、婦人部の協力で整備された市民館前花壇の中でラジオ体操を行い、その後市民館に入り絵本読み聞かせを行う、その後に残れる子ども達は 30 分程度、折鶴作りを行う、最初折り紙に「命を大切に」、「思いやり」や「感謝」等思い思いの文字を書き込んでから折鶴を完成させる。最初わがままな子や気性の激しかった子も何年と続けている内に落ち着きが出て思いやりのある子に変わっていきます。夏休み中に完成した千羽鶴は八戸の蕪島神社や地元の久須志神社に、去年



第4分会

新城まつり、かかしロードなどでの社明広報活動

例年同様に7月、8月、9月に第65回「社会を明るくする運動」について重点的な取り組みを行いました。

7月担当地域の町村役場（逢田村・外ヶ浜町・三厩地区・今別町）に於いて、担当保護司が内閣総理大臣メッセージ伝達を行い、「社明旗」を期間中設置しました。

8月、7回目の参加となる「新城まつり」（西部市民センター）会場には、十数本の「社明旗」を設置し、第4分会副分会長から「新城まつり」実行委員長に内閣総理大臣メッセージの伝達が行われ、分会員が参加した地域の皆さんに、犯罪や非行防止と罪を犯した人たちの立ち直りを助け、地域の一人として迎える理解と協力を願い「社明旗」のうちわ、黄色い羽根、ポケットティッシュを配布し、ふれあいの啓蒙活動を行いました。

9月、国道280号線の地域（油川地区青森農業協同組合駐車場）で開催されている「第9回かかしロード280」開会式に参加し、期間中（9月1日～30日）「社明旗」を設置し、開会式の来賓と地域の皆さんに「社明旗」のうちわ、黄色い羽根、ポケットティッシュを配布し、「社会を明るくする運動」への協力を呼びかけた。これからも地域との連携を続けていきたいと思っております。

【飯田 祥生】

【伊藤 尚三】



第5分会

昨年から実施した北畠まつり火おこし

浪岡地区の新たなイベントとして行われている「北畠まつり（秋）火おこし」をご紹介します。

これまで、浪岡地区は、15世紀から10代200年に渡って津軽北部を支配した公家の一族北畠氏の御所があった所で、これを記念してこれまで夏祭りを実施して参りました。これに加え、交流のあった屋久島町のご神山まつりを移入し、秋に「火おこし」を昨年度から実施するようになりました。祭りのメインは高さ13呎の櫓を組み、芯柱を40名で引き合い摩擦熱で火を興すという勇壮なものです。



今年は、残念ながら雨模様の中での開催となりましたが、互いにロープを引き合ううちにモウモウと白煙が立ち上がり見事着火いたしました。

家内安全等の願いを込めての火おこし、参加した私も更生を願い一所懸命ロープを引きました。

【阿部 哲】

各分会の皆様、誠にお疲れ様でした。今後の更なるご活躍を祈念致します。

新任保護司紹介



（第2分会）
徳差 誠悦

保護司として委嘱された後の二度にわたる初任者講習では、その責任と職務の重大さを痛感しました。様々な凶悪犯罪が、日々、ニュースで報道され、昔の日本は平和だったなという思いを強くしております。戦後の社会は、個人主義思想に基づく自由主義社会であり、自我の確立が前提とされる社会です。しかし、様々な要因から、自我の確立を実現できない人々がいます。これらの人々は、社会規範の意識が低いあるいは無関心な人も多く、犯罪や問題行動に結びつく傾向が多いのではと考えます。このような人々にとっては、戦前の画一的な人生観や職業観の時代の方が生きやすい時代だったかもしれません。等々、漠然と考えるながらも、とにかく、肩ひじ張らず、自分の能力の範囲内で責任を全うしたいと思えます。

平成27年9月1日付

保護司の委嘱をうけて



（第3分会）
田邊 孝美

青森県更生保護協会とプラザあすなるのお手伝いをさせていたただいておりましたが先輩方から現場の保護司もやった方がいいと言われ、いつもお世話になっていた先輩でしたので受けてしまいました。人の人生にかかわることですから責任がぐっと重くなるのを感じます。のべ2日間の研修も指導員の方の情熱を感じました。世の為人の為情熱がなければこの仕事はできないと思えました。幸い私は18才より47年間合気道を学んでおり、世界中で唯一、試合、勝敗がなく、日常生活で和合の心がけを意識する武道です。格闘技なのに争うな、人との調和、和合を教えられます。特に子供は学んでいくうちに明るく礼儀正しくなります。「合気道！」相手に気を合わせます。押されたら押しかえしません、捌きます。この和合の精神でどこまでお役にたてるかわかりませんが皆様の末席にいたいと思えます。

第65回
社会を明るく
する運動

アウガ&中三デパート前 青森ねぶたまつりに参加



鹿内地区推進委員長(青森市長)とともに地域活動部員を中心に街頭広報活動を開催

【アウガ・中三前】7月5日新町通りアウガ前と中三デパート前にて、黄色い羽根と社会を明るくする運動の広報用のチラシ約1,000部ほど用意し、地区推進委員長の鹿内市長はじめ、地区保護司会の天内会長、地域活動部員を中心に配布しました。

県保護司会連合会と地区保護司会は、市P連の協力で青森ねぶたまつりに参加、社明運動を展開

【ねぶたに参加】地区保護司会と県連合会では青森市PTA連合会の協力を得て、8月4日青森ねぶたまつりに参加、辻青森保護観察所長はじめ、保護観察官、地区天内会長、地区保護司会有志が横断幕を持ちたり、うちわ・社明チラシを配布しました。



更生ペンギンの
ホゴちゃん

平成27年度 県央ブロック保護司研修会

野辺地区保護司会 むつ下北地区保護司会 青森地区保護司会

講義「再犯者の処遇について」
講演「笑う門には……」

今年度は9月28日、青森市のねぶたの家ワ・ラッセで野辺地区から23名、むつ下北地区から16名、青森地区から62名が参加して開催されました。



挨拶する天内青森地区保護司会会長

講義では、青森保護観察所の渡邊統括保護観察官が「再犯者の処遇について」(1)なぜ、再犯者処遇が重要なのか。(2)どんな犯罪に再犯者が多いのか。(3)どのような再犯者を優先的に処遇をしていくのが効果的か。(4)窃盗事犯者の特徴。を中心に講義しました。また講演では、レクリエーション・コ



講義する
渡邊統括保護観察官



講演する木村 鐵雄氏



円滑になる。(5)緊張を緩和し、リラックスさせる。以上の項目で会場の人たちを笑いに誘いました。

【この研修内容はビデオを撮っていますので、ご覧になりたい方は、青森地区更生保護サポートセンター・TEL(763)0763までご連絡下さい。月々金 9時から16時まで】

- 1 デイネーター・福祉レクリエーションワーカーの木村鐵雄氏が「笑う門には……」と題して笑いの5つの効果
- (1) 免疫力・自然治癒力が高まる
- (2) ストレスが解消される
- (3) 脳を活性化させ、ひらめきを与える
- (4) 人間関係が円滑になる
- (5) 緊張を緩和し、リラックスさせる

第65回 社会を明るくする運動

第34回みんなのつどい

主催 青森地区更生保護女性会
 後援 社会を明るくする運動青森地区実施委員会
 日時 平成27年7月12日(日)
 開場 午前10時 開演 午前11時
 会場 リンクステーションホール青森

「広げよう非行を防ぐ地域の輪」「ふれあいと対話が築く明るい社会」のテーマの下、神和子実行委員長の挨拶のあと、青森地区保護司会、青森市社会福祉協議会、青森県更生保護協会、更生保護法人あすなる、青森地区協力雇用主会、青森地区 BBS 会、森の工房ふれあい、青森県更生保護女性連盟に益金が贈呈されました。オープニングは、第2なかよし保育園の「ミッキーマウスマーチ」、そして青函交流では、函館北更女会の唄と踊りなど全部で38の発表がありました。



挨拶する神実行委員長



アオモリ・ダンス・アカデミー (賛助会員)



第2なかよし保育園



益金を受ける BBS 会の代表



大間更女会



春日井バレエダンスギャラリー



五所川原更女会



五所川原更女会



東光会・我満定光 (賛助会員)



函館北更女会



大 佳秀 (賛助会員)



春日井バレエダンスギャラリー (賛助会員)



鱈ヶ沢更女会



函館北更女会から青森地区更女会へ



函館地区保護司会の本田会長へ



函館北更女会



池田 進 (賛助会員)



藤 はじめ (賛助会員)



函館地区の本田会長と函館北更女会



工藤社中 (賛助会員)



愛をみんなで (全員・会場のみなさんと)

私の一押しは、津軽半島の北の果て
津軽国定公園「高野崎」です。空は青く、水は碧、白い鷗が風に舞って舞い、晴れた日には、下北半島、遠くは、北海道まで望め、素晴らしい眺めです。そして吉田松陰が通ったこととで名前が付けられた「松陰くぐり」と松前街道の難所と言われ自然が作った岩のトンネルです。ここを松陰が通ったことを想像すると、二度三度とくぐり直したくなります。「襲月海岸」は本町に美しく見所いっぱい。又今別町の郷土芸能「荒馬踊り」は県の無形文化財に指定され、男性の馬と女性の文化財に指定され、男性の馬と女性の手綱取りが一組で跳ねる勇壮な踊りです。毎年8月4日から行われる「荒馬祭り」には、大勢の参加者と地域の人が一体となって祭りを盛り上げ楽しみにます。私は初めて見た時から「虜」になりました。

【工藤 清子】



「ようこそ！
今別町へ」

吉田松陰が旅した歴史街道
そして今、
未来への
誕生



町の花【さく】 町の鳥【かもめ】 町の木【ヒバ】



平成27年度 更生保護関係団体交流会 青森地区と北海道・瀬棚地区保護司会と更女会 〜 瀬棚支部・北檜山支部・今金支部・大成支部 〜



8月28日、地区保護司会では、北海道・瀬棚地区保護司会・更女会との交流会を青森保護観察所出張所長、青森地区保護司会から天内会長はじめ12名、青森地区更生保護女性会から神会長はじめ22名、瀬棚地区保護司会と更生保護女性会（瀬棚支部・北檜山支部・今金支部・大成支部）から25名の参加で、
①更生保護サポートセンター運営について
②地区保護司会の活動

【広報部員 山内 みどり】

9月10日朝起きるなりテレビにくぎ付けになった。茨城県常総市の鬼怒川が決壊したのだ。九死に一生のところまで救助のヘリコプターに助けられる人々の様子が映し出されていった。その中に私は涙が止まらなかつた。こんなことがあつたのだ。防災訓練に参加したことがあるが、そのときは多分何も考えていなかったと思う。私は川底近くに西滝川がある。普段は川が大きいと水量が増すと流れていくが、大雨で水量が増すとこの川も出るかもしれないと思つた瞬間「防災」ということばが頭に過つた。その数日後、九州の阿蘇山が噴火した。阿蘇山は、私が20代の頃九州一周旅行をした時に立ち寄ったところでもある。当時は火口まで近寄つて覗くことができたが、あまりの深さに怖さを感じた。今は近寄ることが出来ないのである。私に思ふと感慨深いものがある。

〔編集後記〕

状況、③更生保護女性会の活動状況など意見交換を行いました。
〔瀬棚町〕町名の由来・町村合併（平成17年）の際、新町名を公募して「せたな町」となりました。
※「せたな」の語源はアイヌ語の「セタルシユペナイ（天の川）が略されて「セタナイ（天の沢）」となり、それが「セタナ」に転化したといわれています。